

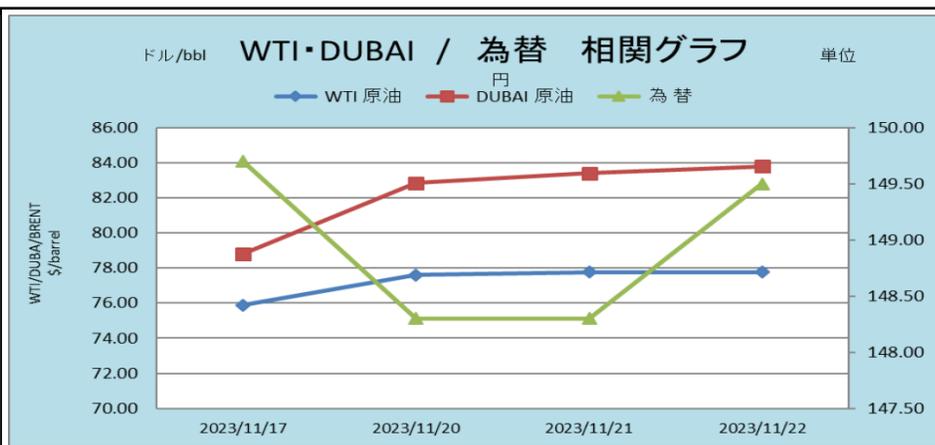
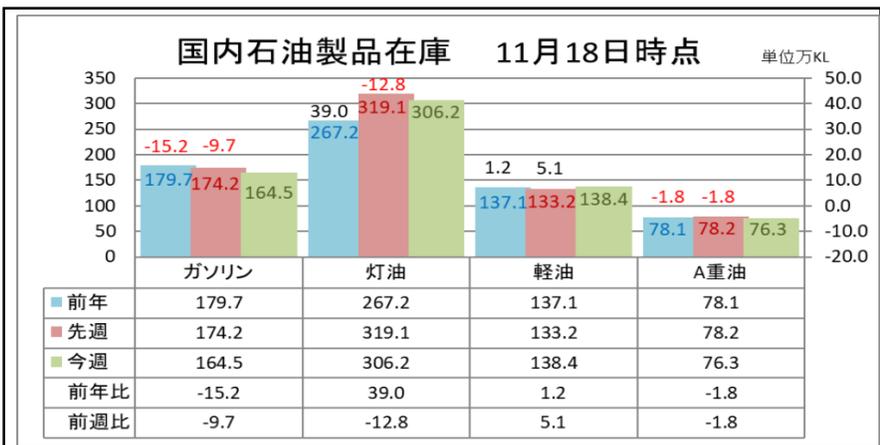
イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/11/24作成 (株)新出光

【概況】<米国原油在庫大幅積み増し~OPECプラス追加減産の検討>

- 17日、前日の相場は4.9%下落し、約4カ月ぶりの安値に沈んだ。米エネルギー情報局(EIA)が15日に公表した週報は、米国の原油在庫が予想を大きく上回る積み増しとなり、過去最大の生産ペースを維持していることを示す内容。中国などの景気停滞に伴う需要先細りへの見方も重なり、需給の緩みに対する警戒感が強まりました。しかし、この日は売られ過ぎとの見方から、週末を前に買い戻しが活発化。相場はドルの軟調を追い風にほぼ1本調子で上昇し相場は75.89ドルへ大幅に反発しました。
- 20日、英紙フィナンシャル・タイムズ(FT)などは17日、OPECプラスが26日開催の閣僚級会合で、最大で日量100万バレルの追加減産を検討すると報じた。報道が引き続き買い材料視され、この日もほぼ一本調子で上昇した。外国為替市場で対ユーロのドル相場が軟化したこともドル建てで取引される商品の割安感につながり、相場は77.6ドルへ続伸しました。
- 21日、一部メディアが17日に報じたところによると、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」は26日開催の閣僚級会合で、最大日量100万バレルの追加減産を検討する可能性があるという。また、サウジアラビアが今年7月から実施している自主減産についても、2023年末から24年春まで期限を延長する公算が大きいと伝わった。これを受け、相場は前日まで2日連続で大幅上昇。しかし、この日は買われ過ぎとの見方が台頭する中、米感謝祭の祝日(23日)を前に利益を確定する動きが広がった。ただ、エネルギー消費量の多い米国や中国の需要鈍化懸念も根強く、77ドル付近では下げ渋る展開。終盤にはわずかにプラス圏に浮上する場面もあり相場は77.77ドルへ続伸しました。
- 22日、OPECは22日、今月26日開催を予定していたOPEC加盟と非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の閣僚級会合を30日に延期すると発表した。目先の相場動向のカギを握る会合が想定外の延期となり、主要産油国の減産方針を巡る不透明感が台頭。国際エネルギー機関(IEA)幹部が、仮にOPECプラスが現行の減産方針を来年以降に維持しても「2024年の世界石油市場は若干の供給過剰になる」との見通しを示したと伝わったほか、有力産油国による供給削減の実効性について懐疑的な見方も一部で根強い。こうした中、原油売りが殺到し、相場は77.1ドルへ下落しました。
- 23日、感謝祭のため休場。

11月24日 16:00現在 WTI原油 76.39ドル 為替 1ドル 150.63円



次回元売変動予測

	11/30~	元売変動予測
ガソリン	→	+1.9~+2.4
灯油	→	+1.9~+2.4
軽油	→	+1.9~+2.4
A重油	→	+1.9~+2.4
LSA	→	+1.9~+2.4

※原油コスト「±0.0円~+0.5円」
 ※激変緩和補助金「-21.6円」前週比+1.9円
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-0.5円」、補助金は、「-23.5円・60%」、都合「+1.1円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの20日時点の小売価格平均は173.7円となっております。

◀11月25日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは「±0.0円~+0.5円」、激変緩和補助金は「-21.6円・60%」の見込みで、都合「+1.9~+2.4円」の改定の予測となっております。

【次世代エネルギー】<余剰電力で作った水素で路線バスを走らせる 九電と九大が実証事業>

九州電力と九州大学は15日、太陽光発電などの余剰電力で作った水素で路線バスを走らせる実証事業を始めた。福岡市西区の九大伊都キャンパスとJR九大学研都市駅間に燃料電池バス1台を導入し、2025年度まで運行する。キャンパス内にある既存の水素ステーションで、電気を使って水素を製造し、バスに補給する。バス(定員78人)はトヨタ自動車の市販車で、昭和自動車(佐賀県唐津市)が運行を担う。大型の燃料電池バスの運行は九州で初めてという。日照条件がよく太陽光発電が普及する九州では、天候や季節によっては供給が需要を上回り、発電の抑制が頻発している。電気が余りそうな日に水を電気分解して水素を貯蔵し、バスの燃料とする仕組みづくりが可能かどうかを確かめる。バスは、燃料の水素と空気中の酸素が反応してできた電気でモーターを駆動させて走る。エンジンのように二酸化炭素は発生しない。10分で水素を補給し、1度の補給で約100キロ走行できる。当面は1日2往復運転する。14日に九大であった式典で、九電の池辺和弘社長は「九州は太陽光などの再生可能エネルギーが豊富だが、電力は大量にためることは難しい。活用できていない電力を最大限活用する、意義のある事業だ」とあいさつした。